

☐ はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

らるご

日付 平成 21年 3月 31日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

開設して丸7年経ったホームの5回目の訪問調査となった。最初の頃から入所していた利用者顔馴染みになったり、残念ながら亡くなってしまった人もいる。その後入所された人とも随分親しくさせて頂いている。何か認知症の人と言うより、昔から付き合いきた兄貴分・お姉さん方という親しみのある方々という感じである。

昨年の報告書では社長がこのホームを設立し、育ててきた経緯に触れたが、今回はホームの運営を支えている3人の職員のホームに対する思いに触れてみたい。

社長と共に設立の時からホームを支えてきたホーム長は、過去から振り返った上で、今日の思いを語った。『もう6年、7年と経って、ようやく余裕が出来たという事かしら。唯自分自身もそれだけ歳を取ったので、これから自分自身の健康管理もしていきたい。そして身体の続く限り頑張りたい。利用者とも長い間生活を共にしてきたけれど、利用者に接する気持ちは自分ではピンと来ないけれど、何か年数と共に慣れも出て来たかなあ。何事にも度胸と経験を持って対応していけるようになった』と。利用者との親しみ、敬愛、愛情等の気持ちの表れであろう。いまだ常勤として交代勤務を続け、昼夜利用者と共に過ごしている。

計画作成担当者として2年前から専従している人。少し体調を悪くして現在は変則時間で勤務している。病院の看護師の経験から介護保険が始まって介護支援専門員の資格を取得していた。2年前よりこのホームに来ての現在の思いを語った。『グループホームに来て、初めて少数数でのゆったりとした生活という境遇でのケアの仕方を経験した。ケアマネの岡山県の研修で講師の言っている事と、今ここで自分がケアしている事のギャップを感じている。グループホームの場での認知症ケアは独自のものが必要で、グループホームでの差、ケアマネの差があり、やり方が全然違うので、もう少しグループホームでのケアを統一した方が良いのではないかと思う。ホーム同士の交流も必要だと思うし、全体的に見れば、バラバラの状態よく見えない』とはケアマネの立場からの最も見方である。

母体法人とホームの総務経理面を主体とした担当者は『利用者は皆可愛いなと思い、誰にでも情が湧いてくる。そしてホームの職員は皆頑張っている。職員あっての“らるご”で、無くてはならない仲間同士である。苦労話と言えば、職員の確保である。この人は大丈夫と思っても、こちらの思いが伝わらなかつたりして人間不信になる事がある。介護に対する熱い思いがあればある程、思いが外れると、好きな事をやって！と思いたくなる事がある』と話す。介護は人間がするもの。人との信頼関係の重要性を感じる。

特に改善の余地があると思われる点

認知症ケアという仕事は、本当は人間に対する専門性が必要な職業だと思う。日本ではこんな学問もなければ専攻部門もないが、認知症のケアをしていく為に、先ずその人の機能を分析して、何をケアすればその人にとって一番有効な方法なのかと一緒に考えていきましょう。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…：特に問題なくスタッフ全員に日々のケアを通して伝え把握できている。家族には、らるご通信や面会時に伝えている。 2. 全体的に見て…：社長とホーム長は、開設時の思いをそのままに、1日でも長く在宅で住み慣れた家で悔いの残らない介護を希望し、入所後は利用者がみんな仲良く相手を思いやりながら豊かにゆったりとした老後を過ごして貰いたい。そして、家族との関わりや触れ合いを大切にしたい。住み慣れた自宅にも都合がつけば外出、外泊させてあげてほしい。入所後のホームが「一番楽しく生活出来る居場所」であると利用者の言わせるホームを作るようにしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…：特に問題なく、吹き抜けのある和風調のホールで読書やカルタ取りを楽しんだり、ゆったりとテレビを見て過ごしている。台所からは、ホールが一望でき、玄関からホールまでの長い廊下にくつろぎの絵が飾ってあり落ち着いた雰囲気がある。 2. 全体的に見て…：ホールの外には広いテラスがあり、丸テーブルに椅子があり日光浴など自由にできるようになっている。玄関を出ると“らるごガーデン”があり、四季に応じた草木が彩りを添え、利用者が四季の変化を体感できるようになっている。庭にはバーベキューのできる設備もあり、秋祭りに地域の人々に日頃の感謝を込め食事を共にして、地域の方や地区の消防団、利用者、事業所関係者などで交流を深めている。地域還元のため、庭の隣接地に運動場を昨年整備し、地域の方と利用者が一緒にゲートボールやグランドゴルフを楽しめるようにしている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	評価 不能	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…：介護計画書作成時のアセスメントをもう少し詳しく記載し、利用者のニーズを的確に捉え、生活プランに沿って日々のケアが実施され定期的に評価し記録に残るような方法を考えてみたらどうでしょうか。利用者個々の認知症の状態を常日頃から把握し、職員間の意識や知識を日々高めるように努力し、利用者の尊厳を忘れず日々ケアされている。 2. 全体的に見て…：利用者が入所時の基本情報と入所後の家族や親戚、知人からの情報をもとに本人の特技や趣味を生かし、ぬり絵や晝、読書、日光浴や運動場でゲートボールも楽しめるようにしている。個々の排泄パターンに合わせてプライドを傷つけないようにトイレに誘導している。居室の名前の掲示や“らるごのなかまたち”通信に記載の写真や日々の生活での写真の掲載など家族に承諾を頂き使用している。「名前を○○さまでなく、自宅と同じ様に呼んでほしいと希望もあり○ちゃんと呼んでいる人もいます。」と笑顔の良いスタッフは話し、信頼関係もできている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	1. 自主評価について…：昨年運動場を整備し、利用者や地域の方々が安全に楽しみながらゲートボールをする場を提供している。平素から地域の方に野菜など頂くため、年に1回感謝を込め“らるごガーデン”でバーベキューをし、地域の方や地区の消防団、ホームの関係者など招き、らるご祭りで交流を深めている。 2. 全体的に見て…：足の上がりが悪く転倒のリスクのある人に離床センサーを設置し、リスクの回避に向けて取り組んだり、頻尿のため回数多く夜間トイレまで歩行するのに転倒の恐れのある人に夜間のみ尿器対応したりしている。日々のケアの中で利用者の残存能力維持のため、できるだけ自分で行うことはしていただき、生活の中に調理の下ごしらえや洗濯量みなど役割を持つようにしている。利用者の希望を聞き散歩やドライブなど戸外に出て、自然とふれあいながら季節感を味わい気分転換できるようにしている。		